

令和6年度「琴定 WORK-WORK(ワクワク)」実施計画

1 実施目的

人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の向上、悩みや不安の心の変化に気づき、自ら相談できる力を付けることを目的とする。

生徒が生涯にわたって社会参加し、一人ひとりが未来に向かって前進する能力を身に付け、身体的に健康であり続けるために、予防的、開発的な視点に基づく心理的教育を実施する。

これらの教育活動は、生徒が将来、職業的自立(WORK)を実現するための演習(WORK)として位置付ける。

2 ねらい

心理的ワークでは、命の大切さを感じとり、援助希求的態度やストレス対処能力を育成するとともに、自己肯定感を醸成し社会の変化に対応する資質・課題対応能力の向上を図る。

社会的ワークでは、専門分野の外部人材^{*1}を活用し、職業生活に必要な実践的マナーや知識を学習し、社会適応能力、自己理解力と自己管理能力を育て、将来設計に役立てる。

若者支援総合センター^{*2}、SC/SSW 高大連携^{*3}などによる外部人材を招聘し、教職員の相談的支援に関する支援方法や他機関連携による効果的支援のしかた、発達障害や不登校など配慮や支援の必要な生徒の対応や教職員の理解を深める。

3 実施期間と実施内容

実施月日	対象	実施内容
4月 4日(水)	1学年	WORK-WORK 生徒の実態把握調査共有
4月17日(水)	1学年	テストバッテリー生徒自己理解調査実施
4月24日(水)	全学年	WORK-WORK 学校生活(学習)アンケート実施
5月 8日(水)	全学年	WORK-WORK 学校生活(きもち)アンケート実施
6月 5日(水)	4学年	4年「はたらく」アルバイト情報社「就職・進学に向けて必要なことは？」
6月 5日(水)	1学年	1年「はたらく」アルバイト情報社「将来のこと、学校生活のこと」
6月12日(水)～	全学年	WORK-WORK 生徒全員面談週間①
6月12日(水)	2～4学年	WORK-WORK HYPER Q-U 検査 [*] の実施
7月 3日(水)	4学年	4年「はたらく」ハローワーク職業講話
7月17日(水)	4学年	4年「はたらく」紳士服の青山「身だしなみ講座」
7月17日(水)	2学年	2年「はたらく」ハローワーク職業講話
8月22日(木)	職員研修①	WORK-WORK 高大連携札幌学院大学「高校生の発達障がい」
8月23日(水)	2学年	WORK-WORK 予防教育③高大連携「自己理解・他者理解」
8月28日(水)	3学年	3年「はたらく」法教育 法務局「インターネット上の人権問題」
9月18日(水)	2学年	2年「はたらく」法教育 法務局「いじめ」
9月18日(水)	1学年	WORK-WORK 予防教育①Youth+「ユースワーカーについて」
10月9日(水)～	全学年	WORK-WORK 生徒全員面談週間②
10月23日(水)	4学年	4年「はたらく」労働局「はたらく」ワークルール
10月23日(水)	3学年	WORK-WORK 予防教育③高大連携「アサーティブコミュニケーション」
10月30日(水)	1学年	1年「はたらく」アルバイト情報社「企業講話①」
11月 6日(水)	1学年	1年「はたらく」アルバイト情報社「企業講話②」
11月 6日(水)	4学年	WORK-WORK 予防教育②Youth+「ユースワーカーについて」

11月20日(水)	2学年	2年「はたらく」アルバイト情報社「企業講話③」
12月 4日(水)	職員研修②	WORK-WORK 特別支援教育センター「多様な生徒の特性理解」
12月 4日(水)	4学年	4年「はたらく」財務局 将来の金融教育の基礎知識
12月 4日(水)	1学年	1年「はたらく」アルバイト情報社「仕事探し」
1月29日(水)	1学年	1年「はたらく」札幌市消費者センター「契約につよくなろう」
1月29日(水)	2学年	2年「はたらく」アルバイト情報社「企業講話④」
2月 5日(水)～	1・2学年	WORK-WORK 生徒全員面談週間③
2月 21日(金)	職員研修③	WORK-WORK通級指導担当「通級のまとめ」

○令和6年度に実施する(計32時間)(実態把握、学習アンケート2時間、生徒面談6時間、調査実施2時間、高大連携2時間、YOUTH+ワーカー2時間、職員研修3時間、「はたらく」外部講師活用15時間)

※¹「はたらく」は、外部人材を招いて、自分の将来について考えるきっかけとし、必要な力を育てるプログラム。

※²YOUTH+ワーカーとはさっぽろ若者サポートステーション学校訪問型ユースワークのことをいう。

※³高大連携とは札幌近郊大学教授を招いた出前講座のこと。

4 その他

- (1) 教科学習では学びきれない横断かつ、4年間を見通した連続的な学び、職業的自立に向けた本校生徒に必要なプログラムを開発し、継続的に実施することを目指します。
 - (2) 学校生活(学習)アンケートは、高等学校における配慮の必要な生徒、支援の必要な生徒のために、生徒が抱える学習に対する苦手さやつまづきを把握し、教科指導への具体的な支援の在り方の研修をとおして明らかにしていくことを目指しています。「書く」「聞く」「話す」「読む」「見る」「注意・集中」「道具の管理」「課題の取組」の項目を本校生徒に合わせたものになっている。質問は、全部で20問であり、10分程度で回答できます。
 - (3) 学校生活(きもち)アンケートは、「自己への気づき」「他者への気づき」「自己のコントロール」「対人関係」「責任ある意思決定」「生活上の問題防止のスキル」「人生の重要事態に対処する能力」「積極的・貢献的な奉仕活動」という8つの能力を図ることができます。質問は全部で26問あり、10分程度で回答できます。
 - (4) 生徒の学習生活意識尺度、学級満足度尺度を把握できる「HYPER Q-U」の実施をします。所要時間は20分程度です。
- ※ 「HYPER Q-U」は、Q-U①「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」②「いごちのよいクラスにするためのアンケート」という、2つの尺度に、新しく③「ソーシャルスキル尺度」と④「悩みに関するアンケート」を加えたものです。
- (5) テストバッテリー調査(生徒の自己理解調査)を入学生生徒対象に多面的、重層的に捉え全体的な生徒理解や生徒の困りごとを早期に発見・支援し、学校不適応の深刻化を防ぐために実施、活用します。所要時間は50分程度です。(問題のCDに従って回答します。)